

サマーワークショップ2024実施報告書

開催概要

- 主催:天沼小学校学校運営協議会(以降CS)
- 日程:令和6年8月29日(木)
- 参加者:教職員、保護者、地域関係者(約60名)
- テーマ:「子ども主体の学び」を一緒に考えよう」

毎年夏にCSが企画運営しているサマーワークショップにおいて、「子ども主体の学び」をテーマに、子どもたちがどのように主体的に学びを深めていけるか、また、大人がどういった関わり方をするとよいかについて話し合いました。

学校運営協議会の渡部会長による開催主旨説明の後の薩摩校長先生の講話では、改めて、子ども主体の学びの重要性と、それを意識した学校内での新たな取組が、子どもたちの主体性を育むために重要な要素となっているとの話しがありました。

講話に続き、各先生方へのインタビュー形式で、具体的な取組についても詳しく紹介されました。これにより、子どもたちが自らのペースで学びを進める機会を増やし、興味を引き出す工夫がなされていることがわかりました。

各グループの熟議では、CS委員がファシリテーターとなり、講話や先生インタビューを聞いて感じたこと、学校や家庭、地域で実践できることについて熟慮と対話を深めました。子どもたちが安心して挑戦できる環境をつくるのが主体性を育む鍵であると認識され、今後も取組を進めていく方針が確認されました。

講話

薩摩校長先生から、本年度の天沼小学校経営方針「子ども主体の学びを通じて、ワクワクする学校作り」に込めた想いとして、子どもたちが主体的に学ぶ力を育むことの重要性についてお話がありました。

.....

現代社会では、「情報の信憑性を見極める力」がますます重要となり、子どもたちは、やがてこうした複雑な社会に出ていくこととなります。その中で、「自分自身で考え、判断し、行動する力」を身に付けてもらいたいと考えています。

小学校段階では、子どもたちが自分で考え、選択する機会を与えることが非常に大切であり、そうした学びの積み重ねが、主体性の育成につながると信じています。

先生に聞いてみよう！

天沼小学校では、「子ども主体の学び」の実現に向けてさまざまな取組が行われています。今回は、先生方にインタビュー形式で具体的な取組や経験をお伺いしました。

質問1)

最近、学校生活や授業の中で「子ども主体の学び」を実践するための具体的な取組を教えてください。

矢島先生の回答：

自由進度学習(※)を実施し、子どもたちが学び方を自分で計画することを促しています。例えば、15時間かかる単元では、その時間内に達成すべき目標を設定させ、自分で進め方を決めるようにしています。学び方については、私に質問したり、動画を見たり、自分でノートをまとめたりする方法を選ばせています。この取組を通じて、子どもたちは自分の得意・不得意を理解し合いながら学びを深めていますが、一方で、先生が進める授業の方が安心すると感じる児童もいるため、バランスを取ることが課題だと感じています。

(※)自由進度学習(じゆうしんどがくしゅう)とは

学習指導要領の基本的な内容を押さえつつ、教師が計画する学習内容の中で、子どもたちが自分のペースで学びを進めることができる教育の方法です。子ども自身が学習計画を立てることで、一人一人に合う学習内容、速度で学びを進めることができ、教師は児童に寄り添って、サポートを行います。

新宅先生の回答：

私も矢島先生と同様に、自由進度学習をいくつかの教科で取り入れています。教科書や学習指導要領の内容を達成しつつ、子どもたちの主体性を尊重するバランスを取ることが最も難しい点です。例えば、社会科では子どもたちに興味のあるテーマを重点的に調べさせる一方で、全員が最低限の知識を身に付けられるように配慮しています。このように、選択肢を与えながらも全体の学びを保証することが重要であり、試行錯誤しながら取り組んでいます。

西川先生の回答：

主体的な学びを促すためには、子どもに選択肢を与えることが大切だと考えています。例えば、調べ方やまとめ方を自由に選ばせることで、子どもたちが自ら考え、取り組む力を育てています。しかし、自由

度を持たせすぎると授業が進まなくなるため、単元ごとにどの部分を自由にするかを決めて進めています。最終的には、総合的な学習の時間において、子どもたちが主体的に取り組めるような基礎を各教科で積み重ねていくことが目標です。

.....

質問2)

取組の中でうまくいったこととその理由を教えてください。

矢島先生の回答：

学び方を振り返る機会を設けることで、子どもたちが自分の成長を実感し、学び方を工夫できるようになりました。また、友達と意見を交換することで、互いに刺激を受け、学びが深まる場面も多く見られます。教師が近くにいるよりも、友達同士で教え合う方が理解が進むことがあり、そうした関わり合いの中で学ぶ力が育っていると感じています。

新宅先生の回答：

学びの場において、子どもたちが自分で調べたり、他の子どもたちと共有したりする緩やかなつながりが非常に大切だと感じています。教師があまり干渉せず、子どもたちが自ら学び合う環境を整えることが効果的です。また、教師の事前準備が学びの成功に大きく寄与しており、必要な資料やリソースを子どもたちに提供することで、深い学びが促進されると考えています。

西川先生の回答：

子どもたちは自分で調べたことを自然に他の子どもたちと共有しがります。教師が特別に話し合いの時間を設けなくても、自然と会話が生まれる環境を整えることが重要です。机に座って授業を受けるだけでなく、立ち歩いて交流できる自由な環境を提供することで、子どもたちの学びがさらに広がると感じています。

.....

質問3)

取組の中で難しかったことと克服のために工夫したことを教えてください。

矢島先生の回答：

子どもたちが一見ぼーっとしているように見える時でも、実際には考えていることがあり、その見極めが難しいです。自由な学びの環境では、子どもたちが自分のペースで考える時間も必要ですが、時には教師が促してあげることも必要です。このバランスを取ることが非常に難しいと感じています。

新宅先生の回答：

教師としての介入のタイミングが難しく、授業が進んでいない子どもに対して、どのようにサポートするかが課題です。30人以上のクラスを一人ひとりしっかりと見守り、個々の学びの進捗を確認する必要がありますが、時には見落とすこともあり、その点を改善していく必要があると感じています。

西川先生の回答：

自由な学びを提供する際には、子どもたちに選択肢を与え、その学びの深まりを支援することが重要です。しかし、自分で学びを進められない子どももいるため、そうした子どもたちに対しても個別のサポートを行うことで、学級全体が円滑に学べるように工夫しています。また、授業外の場面でも子どもたちが自主的に学ぶ力を育むための取組を進めています。

.....
質問4)

もし新人の先生だったら最初はどのように取り組みますか

矢島先生の回答：

私の場合、最初は先輩の先生の授業スタイルを真似るところから始めました。パワフルな先生の話し方や授業の進め方を模倣し、それを自分なりにアレンジしていくことで、自分のスタイルを確立していきました。授業や指導の方法は、他の先生を参考にしながら、自分に合う部分を少しずつ取り入れていくことが、新人の先生にとって有効な方法だと思います。

新宅先生の回答：

新人の先生に必要なのは、他の先生の授業を日常的に見られる環境だと思います。研究授業のような特別な場ではなく、日常の授業を自由に見学できる機会があれば、他の先生方のスタイルを学ぶことができ、自分に合った方法を見つけやすくなるはずです。そうした環境が学校全体の教育の質の向上にも繋がると考えています。

西川先生の回答：

私も同意見です。新人の先生は、まず身近な先生のスタイルを真似るところから始めると良いでしょう。それぞれの先生には個性があり、指導の順序やイントネーション、進め方も異なります。自分に合った先生のスタイルを見つけ、真似ることで授業のコツを掴むことができるはずです。また、他の先生の授業を見学し、空気感や雰囲気も掴むことも非常に大切だと思います。

各グループの議論内容

校長先生の講話、先生の発表を聞いた上で、子どもたちの主体的な学びを促進するため学校や家庭、地域でできることについて、グループに分かれてさまざまな視点から対話が行われました。

以下、各グループの議論内容の要約です。

1. 子どもの主体性を育てるために

1.1 自分で選ぶこと、チャレンジすること

子どもたちが自分で選び、チャレンジすることで、問題解決に取り組む力が育つ。しかし、何をしたらよいかわからない子も多く、そのためには大人のサポートが必要。失敗を恐れずに挑戦し、その努力をしっかりと評価する環境が大切。子どもに目標を立てさせ、その目標に向けて取り組む過程を大切にすることが、主体性を育てる鍵となる。

1.2 興味を引き出す体験

子どもたちが興味を持てるテーマや体験を提供すること。これが主体的な学びに繋がる。地域活動や茶道など、学校外での体験は、子どもの感性や主体性を引き出す絶好の機会。また、「学ぶ」という言葉は「真似る」から来ているとも言われている。大人が良いお手本を見せたり、さまざまな体験を通して子どもの興味を引き出すことが大事。

2. 学びの場を作るための環境づくり

2.1 家庭と学校と一緒にサポート

家庭と学校が連携し、子どもの考えを一緒に受け止めること。これが子どもの主体性を育てるために欠かせない。「先生が教えてくれない」という不安が生まれないように、保護者にも主体的な学びの意図を理解してもらうことが大切。教育委員会、学校、保護者が同じ気持ちで子ども主体の学びに取り組むことで、子どもたちをより良くサポートできる。

2.2 学校での学び合いと授業の工夫

子どもたち同士が学び合い、自由に進められる学びの時間を設けることで、主体性が高まる。授業の中で興味を引き出す工夫や、子ども自身が調べる活動を取り入れることで、授業がもっと楽しくなり、子どもたちが自分で決める機会も増える。そのため、どの程度自由を与えるか、どう進めるかは試行錯誤しながら調整が必要。

3. 主体性と学びのバランス

3.1 主体性と教わる力を育てる

主体性を育むと同時に、「教わる力」も大事。特に低学年のうちは、文字の書き方や語彙をしっかり学ぶこと。その基礎があってこそ主体的な学びが成立する。また、大人が知的好奇心を持ち続けることで、子どもたちにとって良いお手本となり、主体的に学びたくなる環境が生まれる。

3.2 自分で選ぶ力とリーダーシップを育てる

子どもたちが主体的に学ぶためには、ゴールや目標を明確にすることが大切。達成感を感じることで、自信を持ち、リーダーシップや協力の大切さを学ぶ。失敗して振り返ることで新しい考えが生まれ、それが次の挑戦に繋がる。

4. 学校外での学びと地域との関わり

4.1 地域社会とのつながり

地域との連携も、子どもたちの主体的な学びにとって重要。「防災川柳」などの地域活動は、子どもたちに自主的に表現する機会を提供できる。また、家族でニュースを見て話し合うなど日常の中で社会との関わりを持つことが、子どもの視野を広げる手助けになる。

4.2 学校の公開授業を活用する

学校の公開授業を、主体的な学びの場としてもっと活用することが提案された。道徳の授業などで行っている子ども同士の対話を他の授業にも応用し、保護者や地域の方々に子ども主体の学びの進め方を知ってもらうことができる。

5. 大人の役割と姿勢

5.1 大人がお手本になること

大人が子どもと同じ方向を向き、一緒に取り組む姿勢。これが大切。上から目線ではなく、共に楽しみながら学ぶことで、子どもに安心感を与え、主体的に学びたいという気持ちを引き出す。また、失敗しても大丈夫だと示し、先回りせずに子どもを見守ること。これが子どもが自分で行動するために重要。

5.2 与えすぎない教育

大人が何でも与えすぎないこと。これが大事。自分で考え、行動する機会を持つことで、子どもたちは主体的に学ぶ力を養う。学校での調べ学習でも、インターネットだけに頼らず、辞書や書籍を使って深く学ぶことができるようにすることが大事。

まとめ

ワークショップの最後に、「子ども主体の学び」をテーマに、さまざまな立場・観点から意見を伺い、多くの学びが得られたとして、薩摩校長先生からお話がありました。

.....

子どもたちが自ら興味を持ち、学びに積極的に関わる力を育てることは、私たちの目指す教育の大切な柱です。

しかしながら、学習指導要領に基づいた学びを確実に達成しつつ、子どもたちの主体性を引き出すためのバランスをどう取るかは、大きな課題です。私たち教師は、子どもたちに学びの自由を与えながらも、適切なタイミングで支援を行うことが求められます。

また、子どもたちが自分で考え、行動できるよう、「待つ」姿勢が重要であることを改めて認識しました。教師として、時に焦りから手を出してしまうこともありますが、子どもたちの成長には、自分のペースで進められる時間が不可欠です。私たちはこれからも、子どもたちを見守り、必要な時にサポートする環境を整えていきます。

今後も「子ども主体の学び」を中心に据え、子どもたちが主体的に学び成長できる環境を全力でサポートしていきたいと考えています。保護者や地域の皆様と共に、子どもたちの未来を支え、成長を見守るために協力し合えることを心から期待しています。

引き続き、皆様のご理解とご協力をいただきながら、子どもたちの成長を支えていきましょう。本日は誠にありがとうございました。

(文責:天沼小学校 学校運営協議会 研修・交流分科会 吉田真也)